

東日本大震災が起きて10年を迎えたという事で、私の思いを皆さんに申し上げたいと思います。

聞くとところによりますと、報道特集の中で、キャスターの方とか、芸能人の方たちが、震災を忘れてはいけない、風化させてはいけなと、このように皆さん口をそろえて言っていました。

10年が経過し、忘れてはいけない、これは当然のことですけれども、一方で震災の被害を受けた方たちの中には、忘れたたいという方たちもいらっしゃる。もう思い出したくない。そういう方たちもいらっしゃるのです。

私たちというのは、このコロナに対してもそうですけれども、マスコミとかのそういう流れてくる情報だけを捉えてしまう。これはとても恐ろしい事です。

ですから今日は私の今の考えを申し上げます。
そういう方たちもいるんだという事も、やはり忘れてはいけない。なにも震災に限らず、私たちというのは忘れてはいけない、いや忘れたいんだという、そういう考えが両方、存在している事を知らなければなりません。

ここからが大事な事ですけれども、私たちというのは、辛い過去、それを忘れようとする脳の働きのお陰で前向きに生きていけるという事を私も聞いたことがあります。

私も体験しました。何度も体験しました。

不思議なもので、先ほどの脳の働きで、大変だったという事があまり記憶の部分で無くなってきて、ありがたい事のみが残っています。

会主さまが亡くなられた時、私は辛くてご飯も食べられなくて、

どうにもならない時がありました。

そういう中で、亡くなられて3日ぐらい経ってからでしょうか。会主さまが黄金の明るさの中に立っておられました。

そして私の顔を見て、口は開いてないんですけど。「恵司心配ないからね」って。それだけ仰って光の中にお戻りになったんですね。私は夢から覚めて、パッと、「よし！がんばろう！」と、ご飯も食べられるようになり、今日に至っているわけです。

意識的に故人や先祖を思い出すとか思い出さないとか、そういう問題ではなく、もっと私たちの大事な事は心にあるんだという事をそういう体験の中で私は得たのです。

妙智會の先祖供養は、故人や先祖を頭の中で忘れてしまう時でも、法名を過去帳に載せてお経を上げていけば、心はもうつながっているのです。そういう部分では忘れていないんです。ここは大事な事であり、先祖供養のありがたい事だと思います。

妙智會は震災で亡くなったすべての方たちにもご法名をおつけし、朝夕ご供養の時に、震災の方たちにもお経を上げているから亡くなった方たちは私たちの心にいらっしゃるのです。

娑婆的な忘れる忘れないという、そんな考えは教えにはないのです。

人間があーでもない、こーでもないと言っているような、そんな程度の事じゃないんです。妙智の教えというのは。

今月、大導師さま七回忌を迎えます。

大導師さまを忘れないために七回忌をやるんじゃないんです。粛々と当日を迎え、そして大導師さまに喜んで頂く。

これが今の私の使命です。